情報公開文書

2023 年 5 月 16 日作成

Ver.1.0

食道癌術後患者の長期的栄養状態の変化

1、研究の目的と意義

食道癌は時に腫瘍による食物の通過障害をきたします。現在，進行食道癌は術前化学療法を施行後に手術療法を選択する場合が多く，当科では食道癌に対する手術の際，術後に経管栄養を用いた栄養療法を施行しています。手術は消化管の再建を伴うため術後の食事摂取が思うように進まないこと，また胃の機能を失うことで術後の栄養状態や体重変化に大きな影響を受けます。早期の経腸栄養剤を用いた栄養療法が術後の回復を促進することは知られていますが，退院後も続くような長期間の及ぶ栄養療法が，栄養状態や体重減少にどのような影響を及ぼすのかははっきりしません。術後の栄養状態や体重変化に関連する因子は何か，また長期間栄養療法を行った患者さんと行わなかった患者さんにどのような違いがあるのかを調べ，術前・術後（周術期）管理における栄養療法の最適な投与期間を明らかにします。

2、対象となる患者さん

2011 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日までに食道癌の診断で、長崎大学病院胃食道外科（腫瘍外科）にて食道癌の根治手術を受けた 18 歳以上の患者さんが対象です。

3、研究の方法

診療記録（電子カルテ）より以下の情報を収集し解析します。

術前・術後の栄養状態と体重変化の相関を調べます。栄養評価指標の 1 つである GNRI(Geriatric Nutritional Risk Index)を算出し、GNRI が術後合併症の発生や予後と関連しているか検討します。

また栄養療法の実施期間が 30 日未満と 30 日以上の群に分け、栄養状態や体重の変化について調べます。

4、研究に用いる情報

本研究は電子カルテより下記の情報の提供を受けて実施する研究です。

・患者背景：性別、年齢、身長

・体重

・手術因子：アプローチ（鏡視下手術／開胸・開腹手術）、切除術式（胃全摘術、幽門側胃切除術、噴門側胃切除術）、リンパ節郭清度、再建経路（胸骨前・胸骨後・後縦隔）、手術時間、出血量、術後合併症の有無

・腫瘍学的因子：深達度(T 因子)、リンパ節転移(N 因子)、遠隔転移(M 因子)、術前補助化学療法の有無、術後補助化学療法の有無、治療経過

・血液生化学検査：Alb、Pre-Alb、CEA、SCC、p53

・栄養学的因子：栄養経路（腸瘻造設，経鼻経管栄養チューブ挿入，高カロリー輸液），栄養療

法の種類（経腸栄養，経静脈栄養），栄養療法の１日投与カロリー，BMI（現体重・身長より算出），栄養スコア（Alb、現体重・理想体重比より算出）

情報利用の拒否を申請したい場合は、下記の「お問い合わせ先」にご連絡ください。

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、研究期間

研究機関長の許可日～2026 年３月 31 日

6、外部への情報の提供

該当なし

7、研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。

≪研究責任者≫

長崎大学病院　胃食道外科（腫瘍外科）　濵﨑景子

8.お問い合わせ先

長崎大学病院　胃食道外科（腫瘍外科）　濵﨑景子

〒852－8501　長崎市坂本１丁目７番１号

電話：095（819）7304　　FAX　095（819）7306

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療安全課　095（819）7616

受付時間　　：月～金　　9：00～17：00（祝・祭日を除く）